

# 令和2年度 みどり「ひと・まち」スクール実施記録

## 第3講 街の資源を知ろう、夢プランを作るために

講師及び担当：山路コーディネーター、市民局市民協働推進課 松岡氏、金子、西田、野場

日時：令和2年9月12日（土） 場所：緑区市民活動支援センター（みどり一む）  
参加者：6期生（6）、講師、コーディネーター、ナビゲーター（4）、  
サブナビゲーター（3）、都筑区（1）、事務局（3）合計:18人  
Zoom参加：23人（修了生（9）他区職員（12）、緑区職員（2））

### ●学習目標

1. 緑区の自然の成り立ちを知る。福祉の専門的施設の役割を知る。市民活動の拠点の役割を知る。  
多方面から緑区の資源を知ること、自身が描く「夢プラン」がどことつながると情報を得られるかを学ぶ。  
自身のやりたいことを地域で有効活用させていくには、どのような方法があるのか、誰に相談すればよいのかを知る。
2. 「夢プラン」を作り、実現するために必要なこと「ひろがり」と「時間」を学ぶ。

### ●内容

- ・「ムラの軸とトシの軸」
- ・施設を知ろう 緑区社会福祉協議会、地域ケアプラザ、市民活動支援センター
- ・講演「夢プランを作り、実現するために」～必要なものは「ひろがり」と「時間」ふたつの事例から～  
事例1 青葉区荏子田の「まち普請」ゴールイメージの明確化 賛同者を増やす  
事例2 あるマンションの雑木林の管理 ～機が熟すタイミングを待つ  
じんわりと働きかける～
- ・6期生と語る 思いを言葉にする時間（トークセッション）



## 6期生の「学びのふりかえり」より（抜粋）



- 緑区の歴史（ムラの軸とトシの軸）は在住 15 年弱の私にはとても興味が深く緑区愛アップです。
- デイカッション形式も楽しく「ひと・まち」スクールは仲間と出会える場というコメントに、これまでの参加者の方々の想いを感じました。
- 松岡氏の講義は話術も巧みでよくわかりました。私的な内容のリアルな話の中で「罨を仕掛けた等」興味深い話に最後まで引き込まれました。
- 自分の「想い」を共有できて且つ仲間になってもらい実現させていく・・・というプロセスがとても大切であり果たして自分にそこまでできるのか！？と感じました。
- 松岡さんのお話は分かりやすく「活動の辞め方も大切だ」という部分も目からうろこでした。いずれにせよワンマンプレイでは何事も成しえないと痛感しました。
- 地域の地形、まちの成り立ち、緑区、横浜を今までと違う視点で学ばせていただきました。
- 今回も内容が多岐に渡り、大変勉強になりました。ひとりで何かをしようとするのではなく、仲間を見つけて長く続けられる「何か」を、まずは小さく、始めてみたいと思いました。
- トークセッションで6期生全員の意見を聞いたのがよかった。



講師と  
トーク  
セッション



### コメント欄

- 山路コーディネーターによる「ムラの軸とトシの軸」では、区内を東西に流れる鶴見川をムラの軸とし、南北に走る鉄道・道路をトシの軸にたとえて話された。6期生の大きくなずきながらメモをする姿に、緑区を再認識できたと思う。
- 区社協による区内の施設の説明では、今まで気にしていなかった建物が地域福祉の拠点であることや組織、仕事の内容、役割を知ることができた。
- 山路・松岡さんによるトークは、二人の対話だけで終わるのではなく、対話を通して、受講者に質問しやすい雰囲気を作り出していた。その雰囲気は、6期生にも伝わり、対話するコミュニケーションがうまく図られていたと思う。聞くだけではなく話す機会も作る参加型のスクールの良さを感じた。
- ズーム画面を大型スクリーンに映したことにより、前方を見ているだけで、会場全体の様子を把握することができたことは、大変良い企画でした。（担当ナビゲーター：金子）
- 今後受講生の皆さんが活動を始めたときに、一緒に活動を考える支援機関の紹介をしました。すでに活動している団体に入るための相談はもちろん、団体の立ち上げ・継続に関わることや、地域情報を把握している機関です。夢プランの実現に向けて、相談できる先の一つとして頭の片隅に置いていただくと嬉しいです。
- Zoom 越しではありますが、修了生の皆さんからの激励の言葉を受講生に紹介することができました。今年は修了生との交流の機会が少ない分、この講を通して6期生へも修了生の思いが伝わる場にもなったと思います。（緑区社会福祉協議会：西田）